

第1回 簿記実務検定第1級模擬試験問題

会 計

(制限時間 1 時間30分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	不 渡 手 形
売買目的有価証券	建 物	備 品	備品減価償却累計額
鉱 業 権	満期保有目的債券	支 払 手 形	保 証 債 務
社 債	資 本 金	資 本 準 備 金	利 益 準 備 金
売 上	有 価 証 券 利 息	保 証 債 務 取 崩 益	固 定 資 産 売 却 益
仕 入	鉱 業 権 償 却	修 繕 費	支 払 利 息
社 債 利 息	保 証 債 務 費 用	創 立 費	株 式 交 付 費
固 定 資 産 売 却 損	固 定 資 産 除 却 損	割 賦 販 売 契 約 (割 賦 売 掛 金)	割 賦 仮 売 上

- 売買目的で額面 ¥6,500,000 の社債を額面 ¥100 につき ¥98.60 で買い入れ、代金は買入手数料 ¥8,000 および端数利息 ¥26,000 とともに小切手を振り出して支払った。
- 香川商事株式会社は、売価 ¥3,132,000 の商品を36回の均等分割払いの契約で販売した。ただし、収益の計上は回収基準により、商品を販売したときに、売価の総額を対照勘定を用いて処理している。
- かねて、商品代金として高知商店に裏書譲渡していた東西商店振り出しの約束手形が期日に不渡りとなり、償還請求を受けた。よって、手形金額 ¥800,000 および期日以後の利息 ¥2,000 をともに小切手を振り出して支払い、同時に東西商店に支払請求をおこなった。なお、この手形を裏書きしたさいに手形額面金額に対し / %の保証債務を計上している。
- 神奈川商事株式会社は建物の改良と修繕をおこない、その代金 ¥8,300,000 を小切手を振り出して支払った。ただし、代金のうち ¥6,700,000 は資本的支出とし、残額は収益的支出として処理した。
- 愛媛鉱業株式会社（決算年 / 回 3月3/日）は、決算にあたり、生産高比例法を用いて鉱業権を償却した。なお、この鉱業権は当期の期首に ¥162,000,000 で取得し、当期中に15,000トンの採掘量があった。ただし、この鉱区の推定埋蔵量は300,000トンであり、鉱業権の残存価額は零（0）である。
- 宮崎商事株式会社は、事業規模拡大のため、株式600株を1株につき ¥90,000 で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、資本金に計上する金額は、会社法に規定する最低限度額とした。なお、この株式の発行に要した諸費用 ¥720,000 は小切手を振り出して支払った。
- 栃木商事株式会社（決算年 / 回）は、取得原価 ¥3,600,000 の備品を第27期初頭に除却し、廃棄処分した。ただし、この備品は、第2/期初頭に買い入れたもので、定額法により、残存価額は零（0）耐用年数は8年として減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。なお、この備品の評価額は零（0）である。

1 級会計模擬試験問題 第 1 回 [答 案 用 紙]

1	借	方	貸	方
a				
b				
c				
d				
e				
f				
g				

1 得点		2 得点		3 得点		4 得点		合計	
---------	--	---------	--	---------	--	---------	--	----	--

組	番 号	名 前

第2回 簿記実務検定第1級模擬試験問題

会 計

(制限時間 1 時間30分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	不 渡 手 形
売 掛 金	売買目的有価証券	繰 越 商 品	備 品
備品減価償却累計額	の れ ん	満期保有目的債券	子 会 社 株 式
支 払 手 形	買 掛 金	未 払 配 当 金	保 証 債 務
社 債	資 本 金	資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金
自 己 株 式	売 上	社 債 償 還 益	保 証 債 務 取 崩 益
固定資産売却益	支 払 利 息	社 債 利 息	社 債 償 還 損
保 証 債 務 費 用	固 定 資 産 売 却 損	子会社株式評価損	

- a. 長崎商事株式会社は、自社の発行済株式のうち 100 株を 1 株につき ¥65,000 で取得し、代金は小切手を振り出して支払った。
- b. かねて、商品代金の支払いとして東西商事株式会社に裏書譲渡していた南北物産株式会社振り出しの約束手形が不渡りとなり、償還請求を受けた。よって、手形金額 ¥900,000 および期日以後の利息 ¥2,000 をともに小切手を振り出して支払い、同時に南北物産株式会社に支払請求をおこなった。なお、この手形を裏書きしたさいに、手形額面金額の 2 % の保証債務を計上している。
- c. 大分商事株式会社（決算年 / 回）は、第 10 期初頭に備品を ¥1,200,000 で買い入れ、この代金はこれまで使用してきた備品を ¥400,000 で引き取らせ、新しい備品の代金との差額は現金で支払った。ただし、この古い備品は第 8 期初頭に ¥600,000 で買い入れたもので、定率法により毎期の償却率を 20 % として減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。
- d. 福岡物産株式会社は、次の財政状態にある東商会を取得し、取得対価は小切手を振り出して支払った。ただし、同商会の平均利益額は ¥416,000 同種企業の平均利益率を 8 % として収益還元価値を求め、その金額を取得対価とした。なお、東商会の貸借対照表に示されている資産および負債の時価は帳簿価額に等しいものとする。

東商会		貸 借 対 照 表		(単位：円)
売 掛 金	4,500,000	買 掛 金	5,800,000	
商 品	6,300,000	資 本 金	5,000,000	
	<u>10,800,000</u>		<u>10,800,000</u>	

- e. 熊本商事株式会社（決算年 / 回）は、次の条件で第 18 期初頭に発行した社債のうち、額面 ¥30,000,000 を第 24 期初頭に額面 ¥100 につき ¥99.30 で買入償還し、小切手を振り出して支払った。なお、社債の評価は償却原価法（定額法）によっている。

発 行 条 件	額面総額	¥60,000,000	払込金額	額面 ¥100 につき ¥98.20
	償還期限	10 年	利 率	年 1.4 %

- f. 西商事株式会社は、実質的に支配している南商事株式会社の財政状態が悪化したので、保有する同社の株式 250 株（1 株の帳簿価額 ¥60,000）を実質価額によって評価替えした。なお、南商事株式会社の資産総額は ¥46,000,000 負債総額は ¥35,600,000 で、発行済株式数は 400 株（時価の把握がきわめて困難な株式）である。
- g. 佐賀商事株式会社は、株主総会において、資本金 ¥6,600,000 を減少して、その他資本剰余金を同額増加させたうえで、剰余金 ¥6,000,000 の配当を行うことを決議した。なお、配当額の 10 分の 1 を資本準備金に計上した。

1 級会計模擬試験問題 第 2 回〔答 案 用 紙〕

1

	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		
g		

1 得点	2 得点	3 得点	4 得点	合計
----------------	----------------	----------------	----------------	----

組	番 号	名 前

第3回 簿記実務検定第1級模擬試験問題

会 計

(制限時間 1 時間30分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	売 掛 金
売買目的有価証券	未 収 金	建 物	機 械 装 置
機械装置減価償却累計額	建 設 仮 勘 定	満期保有目的債券	支 払 手 形
買 掛 金	未 払 金	未 払 配 当 金	保 証 債 務
社 債	資 本 金	資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金
利 益 準 備 金	繰 越 利 益 剰 余 金	売 上	仕 入 割 引
有 価 証 券 利 息	社 債 償 還 益	固 定 資 産 売 却 益	仕 入
売 上 割 引	社 債 償 還 損	保 証 債 務 費 用	固 定 資 産 売 却 損

- 愛知商店から商品 ¥850,000 を仕入れ、代金のうち ¥300,000 は得意先岐阜商店振り出し、当店あての約束手形を裏書譲渡し、残額は愛知商店あての約束手形を振り出して支払った。なお、保証債務の時価は手形額面金額の2%とする。
- かねて建築を依頼していた商品保管用の倉庫が完成し、引き渡しを受けたので、建築代金 ¥68,000,000 のうち、すでに支払ってある金額を差し引いて、残額 ¥23,000,000 は小切手を振り出して支払った。
- 満期まで保有する目的で、三重商事株式会社の額面 ¥6,000,000 の社債を、額面 ¥100 につき ¥97.50 で買い入れ、代金は買入手数料 ¥18,000 および端数利息 ¥22,000 とともに小切手を振り出して支払った。
- 福井商店に対する買掛金の支払いにあたり、支払期日前のため、契約によって ¥3,000 の割引を受け、割引額を差し引いた金額 ¥297,000 は現金で支払った。
- 滋賀鋳業株式会社（決算年/回）は、当期首に機械装置を ¥9,450,000 で買い入れ、この代金は、これまで使用してきた機械装置を ¥580,000 で引き取らせ、新しい機械装置の代金との差額は月末に支払うことにした。ただし、これまで使用してきた機械装置は ¥8,500,000 で買い入れたもので、残存価額は零（0） 予定総利用時間数は16,000時間 前期末までの実際利用時間数は15,200時間であり、生産高比例法によって減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。
- 石川商事株式会社は、株主総会において、剰余金 ¥5,000,000（その他資本剰余金 ¥1,000,000 繰越利益剰余金 ¥4,000,000）の配当をおこなうことを決議した。なお、配当にともない、その他資本剰余金からの配当額の10分の1の金額を資本準備金として、繰越利益剰余金からの配当額の10分の1の金額を利益準備金として計上する。
- 大阪産業株式会社（決算年/回）は、次の条件で発行した社債のうち、額面 ¥30,000,000 を発行後8年目の初頭に額面 ¥100 につき ¥99.70 で買入償還し、小切手を振り出して支払った。なお、社債の評価は償却原価法（定額法）によっている。

発行条件	額面総額 ¥80,000,000	払込金額	額面 ¥100 につき ¥98.60
	償還期限 10年	利 率	年1.2%

1 級会計模擬試験問題 第3回 [答 案 用 紙]

1	借	方	貸	方
a				
b				
c				
d				
e				
f				
g				

1 得点		2 得点		3 得点		4 得点		合計	
---------	--	---------	--	---------	--	---------	--	----	--

組	番 号	名 前